登録の現況

事業部より

2年連続で申込頭数増加

令和7年度（令和8年1月末現在）の都府県別の血統登録申込み、移動証明をはじめ各種申込並びに会費納入件数を表に示しました。

血統登録雌牛申込頭数は個別・自動登録含め、3万1290頭で前年同期より620頭の増となり、率にして102・0%となりました。新型コロナウイルス感染症やウクライナ情勢でここ数年申込頭数は減少が続いていましたが、昨年度は3年ぶりに増加に転じ、今年は順調に増加が続きました。全国26の府県で増加し、特に群馬県（160頭）、愛知県（122頭）、岩手県（111頭）、大分県（109頭）では100頭以上、鳥取県（97頭）他7県で50頭以上の増加となっています。依然として酪農家を取り巻く情勢は厳しい状態が続いておりますが、昨年度に続く増加傾向は、会員皆さまのご理解と、各県の登録委員及び関係者の登録普及推進にご尽力いただいた結果であると思われます。このまま順調に申込件数が回復することを期待したいと思います。

自動登録による登録は80%に迫る

血統登録申込のうち、自動登録申込は2万4408頭で前年同期より4056頭の増、率にして101・9%となりました。自動登録の申込みも昨年度に続き増加となっています。

全国22の府県で増加しており、特に岩手県（199頭）、愛知県（127頭）、千葉県（124頭）、大分県（103頭）の4県では100頭以上の増加となりました。血統登録全体に占める自動登録の割合は78・10%で、前年度が78・1%だったことから、0・1ポイントの差ではありますが、80%目前で推移している状況です。

自動登録の登録率は増加してきている反面、自動登録実施農家戸数の減少は続いています。直近の実施農家戸数は1822戸と、前年より42戸減少していますが、自動登録の頭数が増加しているのは、これまで続けてきた各支部・承認団体担当者の自動登録推進活動と審査中の普及推進による成果だと考えております。

自動登録は全頭登録が条件となりますが、個別登録よりも安価で素早く登録され、移動証明不要なのが自動登録の最大のメリットでもあります。引き続き自動登録の普及推進にご理解いただければ幸いです。

移動証明申込は前年並み

移動証明申込件数は1564頭で、前年同期より10頭増加で、前年並みで推移しています。

牛は農家の大事な「財産」です。血統登録牛の所有者が変更になった場合は、移動証明申込が必要です。移動証明が完了していなければ、その牛から生まれた子牛の血統登録をすることができず、体型審査の証明や検定成績証明を出すこともできません。

特に個別申込の場合、所有者変更には移動証明が必要ですので、忘れずに移動証明の申込みをお願いします。

会費納入は減少続く

今年度の会費納入件数は3435件で、前年同期よりも172件減少しました。

血統登録申込や自動登録申込は多くの府県で増加していますが、会費納入については増減なし、もしくは減少が多いことが表からも見て取れます。全国的な酪農家減少に伴い会員も少なくなってきているのが現状です。

牛群改良を経営改善につなげるためのツールの一つが血統登録であります。日本ホル協では血統登録の必要性を伝えながら、これまで血統登録をしていない農家が新規会員になってもらうような活動をしてまいりたいと思います。

（事業部・國行）

表　各種登録等申込み状況（令和7.4.1～令和8.1.31）

	血統登録申込		自動登録申込		移動証明申込		会　費	
県名	累計	同期比	累計	同期比	累計	同期比	累計	同期比
青森	689	83	426	56	88	48	115	−4
岩手	3,883	111	2,252	199	160	57	515	−28
宮城	450	87	338	38	11	7	140	−1
秋田	324	42	314	38	2	1	50	−1
山形	334	2	171	−61	81	66	75	−10
福島	1,119	68	910	44	63	16	162	−11
茨城	1,648	52	1,473	47	14	−6	134	−2
栃木	1,863	−35	1,625	−34	17	−6	154	−3
群馬	2,779	160	1,723	−178	141	−80	127	−28
埼玉	277	24	226	52	7	7	23	3
千葉	913	91	833	124	5	−10	78	−1
東京	124	−27	78	−22	18	2	22	−1
神奈川	254	37	158	56	12	8	34	−2
新潟	309	50	92	−30	31	16	34	2
富山	146	1	138	5	0	0	10	−2
石川	21	−18	21	−1	0	−1	2	1
福井	68	−12	68	−10	0	0	8	−1
山梨	221	6	191	10	6	−9	38	−2
長野	712	21	505	−32	57	7	120	−4
岐阜	368	−52	289	−12	10	6	36	−4
静岡	426	−20	371	−38	4	1	85	−3
愛知	1,881	122	1,643	127	23	−28	147	−10
三重	17	−15	5	−1	6	−2	18	−2
滋賀	206	−9	166	−23	44	32	18	2
京都	168	48	88	−12	2	−9	15	−2
大阪	106	14	89	19	3	1	14	5
兵庫	507	−4	377	23	60	−6	81	−12
奈良	1	0	0	0	0	0	4	2
和歌山	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥取	1,625	97	1,542	66	1	−1	78	−6
島根	202	−20	170	21	11	−4	15	−5
岡山	1,140	−165	1,083	−131	1	1	87	−4
広島	319	−74	287	−18	78	−24	40	−3
山口	229	17	222	33	0	0	24	2
徳島	84	18	54	47	1	−7	6	0
香川	74	−1	74	−1	0	0	8	−1
愛媛	372	70	195	−5	23	13	36	3
高知	91	−23	70	−9	4	4	9	−3
福岡	775	−66	605	−44	19	4	92	−2
佐賀	132	9	129	20	0	−3	13	−1
長崎	162	40	161	39	0	−1	27	0
熊本	3,207	−134	2,727	−16	335	−60	412	−14
大分	732	109	597	103	17	−26	12	0
宮崎	789	24	617	19	83	19	177	−10
鹿児島	1,375	−54	1,281	−46	35	10	116	−3
沖縄	164	−54	24	−6	80	−24	24	−6
国・牧場	4	0	0	0	0	0	0	0
事業団	0	0	0	0	11	−9	0	0
合計	31,290	620	24,408	456	1,564	10	3,435	−172

第47回　通常総会

全国ホルスタイン改良協議会

全国ホルスタイン改良協議会（山本真五会長）は2月27日、（一社）家畜改良事業団会議室において第47回通常総会を対面とWebを併用したハイブリッド形式により開催し、前年度事業報告並びに収支決算報告、令和7年度事業計画案並びに収支予算案について協議し、全て原案どおり可決承認された。

開会に先立ち山本会長から、「我々の使命は明確。優良なホルスタインの改良を通して、生産性の向上と経営の安定、持続可能な酪農に貢献すること」と、力強い挨拶が述べられた。

令和7年度事業等報告

事業報告では、昨年7月に青森県で開催したジャッジング・スクールについて、青森県ホルスタイン改良協議会並びに全国農業協同組合連合会青森県本部の協力のもと、全国25都道府県・AI事業体等・地元同志会等関係者を含め総勢160名超の参加により盛会に開催されたこと、また、昨年10月に開催された第16回全日本ホルスタイン共進会北海道大会に協賛したほか、ジュニア・インターミディエイト・シニア各部門の名誉賞・準名誉賞にバナーを贈呈し、大会に彩りを添えたことなどが報告された。

なお、本年度事業計画では、ジャッジング・スクールを10月9・10日に島根県において開催すること、セミナー・酪農講演会については、時々刻々と変わる世界情勢、あるいは国内情勢について研修会を開催するとともに、国内優良遺伝子の有効活用が図れるよう、情報発信を行っていくこと等が報告された。

認定ジャッジマン10名

青森県で開催したジャッジング・スクールにおいて優秀な成績を修め、新たに認定ジャッジマンの資格を取得した10名は次のとおり。全国各地の共進会並びにB&Wショウでの活躍に期待したい。

菅井慎也氏（北海道）、菊地章太氏（北海道）、折元正人氏（岩手県）、中山諒一氏（岩手県）、菊地武士氏（宮城県）、三輪圭吾氏（群馬県）、糟谷英文氏（千葉県）、齋藤孝太郎氏（千葉県）、中村毅氏（福岡県）、中谷英世氏（一社）ジェネティクス北海道

（一社）家畜改良事業団会議室にて

今後の行事

日本ホル協

◇令和7年度決算監査会　5月15日（日ホ会議室）
◇第334回理事会　5月29日（AP東京八重洲）
◇第335回理事会　6月19日（AP東京八重洲）
◇第76回通常総会　6月19日（AP東京八重洲）
◇第336回理事会　6月19日（AP東京八重洲）
◇令和8年度地区別登録委員研修会　7月中旬～8月上旬、各ブロック開催
◇支部・承認団体夏期登録事務担当者会議　7月中旬～8月上旬、各ブロック開催
◇中央審査研究会　9月中旬予定、北海道酪農学園大学付属農場

自動登録の「事故照会」を減らしませんか？

～カギを握るのは「確実な授精報告」です～

日本ホル協が推進しております「自動登録」は、申込書不要で血統登録証明書の発行が早く、さらに料金を安く設定していることから、多くの会員農家の皆様にご活用いただいています。おかげさまで、今年度の都府県における自動登録率（血統登録雌牛のうち自動登録によるものの割合）は78・0%となる見込みです。支部・承認団体や登録委員の皆様には自動登録の普及推進にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

しかしその一方で、課題となっているのが「事故照会」の増加です。せっかくの便利な自動登録をより良く活用していただくため、改めて改善のポイントをお伝えいたします。

事故ゼロを目指し必要作業の見直しを

図1は都府県における自動登録農家ごとの事故照会の発生割合を「事故率」としてまとめたグラフです。全体の約3分の1にあたる542戸の農家が「事故なし」となっており、非常にスムーズに自動登録が実施できています。しかしながら、事故率が90%を超える方も一定数いる状況です。まずはこの「事故なし」のグループを目指して、自動登録に必要な作業を見直していただくことが重要です。

約2割に事故が発生 原因は「授精報告漏れ」

自動登録の申込件数で見ると、自動登録農家で出生した乳用種雌牛のうち、約2割がスムーズに血統登録証明書が発行できていない実態がありました。令和7年度（令和8年3月9日現在）の申込件数3万1476件のうち、最も多い事故の内容として授精の「報告がない」、あるいは「内容に不備がある」といった授精報告不備が5203件発生しています（図2参照）。

授精報告に不備があると、父牛を確定できないため、血統登録証明書を発行することができません。この場合、事実確認のために「事故照会」の文書を送付することになり、血統登録証明書発行までに余計な時間と手間がかかってしまいます。

「出生報告」の前に「授精報告」が必要

「自動登録を始めたのに、血統登録証明書ではなく事故照会文書ばかり届く…なぜ？」と思っている方はいらっしゃいませんか？　その理由は自動登録のデータ収集の仕組みにあります。

自動登録は、家畜改良センターへの「出生報告」のデータと、子牛が生まれる前までの「授精報告」のデータが必要ですが、実際のデータの流れは、出生報告が行われた時の出生データに、授精データが紐付けされて自動登録のためのデータが作られる仕組みとなっています。つまり、「出生報告をした時には、すでに授精報告が完了していること」が、スムーズな自動登録の絶対条件なのです。

「出生報告」は比較的問題なく行われていますが、「授精報告」は農家や母牛の状況によって漏れていることがあり、これが事故照会増加の原因となっています。

今回は授精報告の漏れが発生しやすいケースをまとめました。当てはまる方は、ぜひ改善していただきますようお願いします。

①牛群検定を利用されている方

検定立会の際、前回の検定日以降に行った授精記録を漏れなく検定員へ伝えて、ハンディターミナル等でデータ入力を行ってください。報告漏れは、そのまま事故照会に繋がってしまいます。

②牛群検定で未経産牛は分娩後に加入している方

「搾乳が始まってから検定に加入すればいい」と考えがちですが、それでは初産の子牛はすべて事故照会になってしまいます（図3参照）。未経産牛であっても分娩前に加入し、授精報告を済ませておきましょう。育成牧場への預託牛も同様です。そうすることで、事故照会を防ぐとともに、牛群全体の分娩頭数の予測や未経産牛の繁殖成績を把握することにも繋がります。

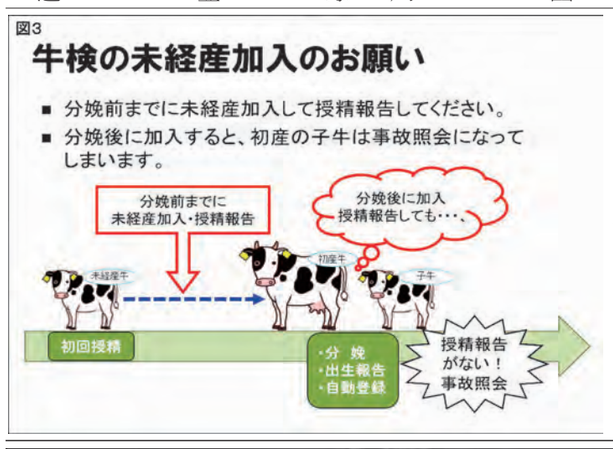
③インターネットで授精報告している方

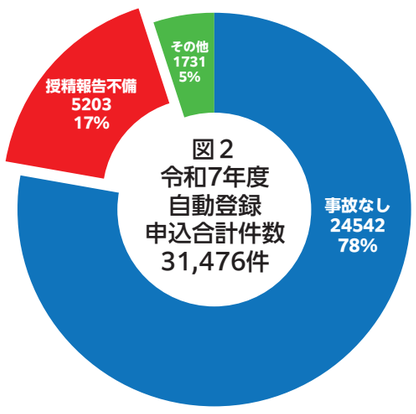
「入力するのを忘れていた」、「入力方法が分からなくなった」というケースが散見されます。今一度、操作マニュアル（二次元コード参照）をご確認いただき、確実な入力を習慣にしていただくようお願いいたします。

自動登録の大きなメリットは「早い・安い・手間いらず」です。確実な授精報告を心がけていただくことで、事務負担を減らし、よりスピーディーに血統登録証明書を発行することができます。皆様のより一層のご協力をお願い申し上げます。

（事業部・門間）

自動登録マニュアル





日本ホル協特集

乳牛のことなら・・・
ホル農協にお任せください!!

2026　北海道ホルスタインナショナルショウ
開催期日／令和８（2026）年９月26日（土）～27日（日）
開催場所／北海道ホルスタイン共進会場（勇払郡安平町早来新栄）

2026 ゴールデン ナショナル セール　9月26日17：15～
★国内最高の遺伝資源を集め開かれる日本一の乳牛セール

市場
開催日／毎週火曜日 受付8:00～ セリ9:00～
場所／勇払郡安平町早来新栄
TEL0145-22-2288
新千歳空港から車で約15分
出品家畜／乳牛、乳廃牛、初生犢、肉牛、馬、羊

斡旋
豊富な経験と
確かな情報をもとに、
皆様のご用命にお応えします。
選定から価格交渉、輸送、
事故補償まで
サービスも万全!!

《市場・斡旋のお問い合わせは》　ホルスタイン農協 経済部まで
北海道ホルスタイン農業協同組合
〒001-0015　札幌市北区北15条西5丁目1-5　【代　表】TEL 011-726-3111　FAX 011-726-3135
【経 済 部】TEL 011-726-3114　FAX 011-700-2837
ホームページアドレス：https://www.holstein.or.jp/hhac/index.html